

キャンパス散策（北九州市立大学）

■沿革・概要



北九州市立大学は、九州の玄関口で、環境都市として国内外の注目度の高い北九州市にあり、「北方」と「ひびきの」の2キャンパスに6学部（外国語・経済・文・法・国際環境工学部、地域創生学群）と4研究科（社会システム研究科、法学研究科、マネジメント研究科、国際環境工学研究科）、学生数約6,600人を有する総合大学です。昭和21年に小倉外事専門学校として創立された後、北方キャンパスを中心に、外国語、経済、文、法など人文・社会科学系の教育の充実を図ってきました。平成13年には、ひびきのキャンパスに国際環境工学部を設置し、情報や環境工学教育への新たな挑戦を始めました。そして、平成17年の公立大学法人への移行とともに、「教養教育の再生・強化」、学生生活を多面的に支援する体制を構築など、「教育の質の向上」を目指した「大学改革」に積極的に取り組んできました。平成21年には、地域を幅広く学び、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指して、地域創生学群を開設しました。また、地域貢献活動においては、日本経済新聞社が実施する「大学の地域貢献度ランキング」調査において5年連続上位にランクインするなど非常に高い評価を得ています。



北方キャンパス



ひびきのキャンパス

北方キャンパス

北方キャンパスの敷地内には、地上14階建て、高さ約80mの大学校舎としては九州でも有数の高さを誇る「本館」をはじめ、図書館機能と情報機能を併せもつ「学術情報総合センター」、留学生との交流拠点「国際教育交流センター」などの施設が充実しています。「本館」には、3ヵ国語同時通訳機能付きの特大教室をはじめ、CALL教室、多目的ホールなどの設備のほか、地下には開放的な吹き抜けが特徴の学生ホールや、テイクアウト方式のパーラーがあり学生達の憩いの場になっています。



本館 学生ホール

ひびきのキャンパス

ひびきのキャンパスは、北九州学術研究都市の中にあります。このまちには、九州工業大学や早稲田大学の大学院及び研究所、英国クランフィールド大学北九州キャンパスなどが集い、共同研究や教員・学生の交流を推し進めています。国際環境工学部の



ひびきの本館

ある「ひびきの本館」は、地下で自然に冷やされた空気を建物全体に通したり、自然の風を利用した煙突「ソーラーチムニー」で空気を入れ換え、冷暖房に使う電気や熱を調整するなど、自然エネルギーを無駄なく利用するシステムを取り入れています。

教育の特色

本学の教育の特色は、「入試から就職まで一貫した教育システムの構築」とそれを支援する充実したサポート体制にあります。大学の入口である「入試」にはじまり、社会人として必要な知識と心を育てる「教養教育」や「キャリア教育」、高度な専門知識を習得する「専門教育」を充実させるとともに、学習・進路・就職・生活・健康など様々な相談に応えるため「学生プラザ」を設置し、学生のキャンパスライフをサポートしています。

学生支援

本学の学生支援の取組みとして、「学生プラザ」「早期支援システム」「地域共生教育センター」を紹介します。

○学生プラザ

本学に入学した学生が充実したキャンパスライフを送り、自らの進路を見だし、それに適った職業に就けるよう、きめ細かに学生をサポートする場として、平成19年10月、「学生プラザ」を開設しました。この学生プラザは、主に就職支援を行うキャリアセンターと、相談ごとや悩みの解決に向けた支援を行う学生相談室の二つからなっています。

・キャリアセンター

キャリアセンターは、進路・就職活動に関するどんな些細な悩みでも気軽に相談できるようにしており、学生個々の事情に合わせた求人情報の提供等を行っています。専門のカウンセラーやスタッフが相談に応じるだけでなく、就職が決まった4年生も、具体的な就活の質問・相談に応じています。また、学生が主体となって学内の合同業界研究会を運営するなど、学内のイベントに関わることによって、将来の自分



キャリアセンターでの相談の様子



学生主体の合同業界研究会

の就職活動が意識できるような取組みを行っています。

・学生相談室

学生相談室は、体の不調時やけがをした時に利用できる「保健室」、専門の心理カウンセラーが相談に乗る「カウンセリングルーム」、どこに相談してよいか分からない多種多様な悩みに対応する「学生なんでも相談窓口」の3つが1つのチームになり、問題解決のために力を尽くします。「海外へ私費留学するため、休学したい」「悪徳商法の勧誘に困っている」など、学生生活で生じるあらゆる悩みを相談できる窓口です。

○早期支援システム

このシステムは、必修授業や少人数授業を「センサー科目」に指定し、3回連続欠席した学生を対象として学生相談室担当の教職員が事情を聴くというものです。今までは本人が自らの意思で相談に来ない限り、把握出来なかった学生の状態が、このシステムの導入により、生活指導や健康や心への対応ができるようになり、平成21年度3年進学時の外・経・文学部の留年者は平成18年度と比較すると40%も減少しました。

○地域共生教育センター（通称 421Lab.）

地域社会における実践活動を通じ次世代を担う人材の育成を目指すとともに、本学の地域貢献活動の一翼を担うことを目的に、平成22年4月に開設しました。地域を活動フィールドにして、様々な課題を教育プロジェクトとして取り組むことで、地域と大学がともに成長していく社会づくりを進めていきます。現在、センターの運営には学生も携わっており、相談に来る学生の対応や広報誌の作成などを分担して行っています。



421Lab. 学生スタッフ

今後とも、学生達が充実したキャンパスライフを送り、社会へ巣立つことを教職員一丸となって支援して参ります。